

令和7年度がん診療連携拠点病院等「PDCAサイクル評価シート」

部 門		評価項目	Plan(計画) 2025.08
作業部会	がん登録部会	1.がん登録の精度維持を図る	実務者研修会を奨励する。
		2がん登録情報を社会還元する	HPなどを通じて、秋田県のがん医療の実態について広く広報する。
		3がん登録データを活用する	がん登録データに基づく研究を支援する。
	緩和ケア・教育研修部会	1 がん診療連携拠点病院等の緩和ケア提供体制の評価・改善に向けた体制を構築する	各施設が、緩和ケアの提供体制・緩和ケアチームの活動についてPDCAサイクルによる評価・改善に取り組む。
		2 がん診療連携拠点病院等におけるアドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援を提供できる体制を整備する	E-FIELD研修を企画・実施する
		3 患者・家族、地域住民が緩和ケアへの理解を深め、どこにいても緩和ケアにアクセスできる体制を構築する	がん診療連携拠点病院等と2次医療圏の非拠点病院との連携体制を整備する
	がん地域連携部会	1 がん診療の地域連携を強化するために、各施設ごとに地域連携部会委員を選出する	各施設にがん地域連携部会委員を選出いただくように依頼する(前年度からの変更があればご連絡いただく)。
		2 秋田県のがん診療連携における課題を抽出し、対応を図る	選出されたがん地域連携部会委員でディスカッションの機会を設ける。
		3 秋田県がん地域連携部会の認知度を高める	選出されたがん地域連携部会委員とのディスカッションを通じて、各施設において本部会の存在について周知していただく。
	がん患者相談部会	1 がん診療連携拠点病院等におけるがん相談支援の質の向上を図る	1-1 がん診療連携拠点病院等のがん相談員等を対象とした研修会を行う 1-2 相談者からフィードバックを得る体制を整備する
		2 がん相談支援センターの活用促進を図る	2-1 秋田県立図書館連携「がん情報セミナー」を開催する 2-2 がんサポートハンドブックの改訂に向けた検討を行う がん相談支援センターを周知する既存のツール ポケットティッシュやポスター の利活用を検討する
		3 大規模災害時の県内のがん相談支援センター間のネットワーク体制を構築する	3-1 関係者との話し合いの場を設け、体制構築に向けた情報収集、検討を行う
	化学療法部会	1免疫チェックポイント阻害剤の適切な運用を徹底する	免疫チェックポイント阻害剤の使用状況について調査する
		2秋田県における標準的ながん薬物療法の運用を支援する	秋田大学医学部附属病院で承認されたプロトコール、および関連資料をHPで公開し、県内がん拠点病院における化学療法プロトコールの作成、運用を支援する。
		3がんゲノム診療への円滑な移行を支援する	がんゲノム診断へのシームレスな移行がなされているか調査する
	AYA世代がん医療部会	1AYA世代がんの悉皆調査を行う	秋田県内の”がん拠点病院”を受診した全てのAYA世代がん患者についてアンケート調査を行い、実態把握に努める。
		2AYA世代がんの治療実態を調べ、治療アウトカムを評価する。	登録されたAYA世代がん患者の治療状況についてアンケート調査する。
		3AYA世代がん患者への支援状況を調べる。	AYA世代がん患者への支援状況をアンケート調査する。
	がんゲノム医療部会	1.がんゲノム診断の精度向上を図る	○スキルアップとして、がん遺伝子関連の各種研修会の情報提供ならびに参加を促すこと。 ○エキスパートパネルへの参加を行い、実務を深めること。 ○新たに始まる血液がん対象のCGP検査に関して秋田大学と他医療機関との連携体制を整えること。 ○過去に施行されたデータを元に、新たな情報提供することについての、体制を整えること。
		2.がんゲノム診断の認知度を高める	○県内医療機関にて、がんゲノム関連の研修会実施する。 ○ゲノム診断・医療に関する情報の均てん化に努める。 ○がん遺伝子パネル検査件数の増加を目指す。 ○大学外からの紹介患者数の増加を目指す。
		3.遺伝性腫瘍の認知度を高め、サポート強化に努める	○秋田大学遺伝子医療部との連携を行い、がん遺伝子パネル検査における二次的所見の取り扱いや生殖細胞系列の遺伝子異常に対する対応の周知や患者サポート体制を強化していく。
	放射線療法部会	1 県内における放射線治療の提供・実施体制の解析を行う。	2024年度(2025年2月)に実施したアンケート調査の解析を進め、学会や論文で成果公表する。
		2 県内の放射線治療の質の向上に取り組む。	秋田県で行われている放射線治療の質を明らかにするため、各放射線治療施設で実施している照射技術、照射プロトコール、実際の診療内容についてデータ収集する。
		3 最新の放射線治療についての情報を県内で共有する	医療者、市民を対象とした放射線療法セミナーを定期開催する。

部 門			評価項目	Plan(計画) 2025.08
拠点 部 病 院 等	大館市立総合病院	放射線治療	1放射線治療後の有害事象に対してケアの連携強化	治療中のケアアセスメントシートを紙媒体から電子カルテ内に反映させ情報の共有を図る
				他職種カンファレンスの実施
		化学療法	1 副作用症状に対し、速やかに診察、検査、投薬を行う体制を整備する。	・副作用ケアマニュアルの改訂・追加を行う
			2 外来化学療法の体制について、市民へ周知する	外来化学療法に関する揭示事項を踏まえ、患者の視点に配慮し、整備し、その内容を関係部署と連携し、ホームページ上へ掲載する
		がん登録室	1がん登録の精度向上	・積極的にスキルアップ研修会に参加する ・登録データの病期不明の件数を少なくする ・データの品質管理と倫理チェック等、再チェックを行う
			2がん登録データ解析	・当院のがん登録データを様々な角度から統計を取り、当院ホームページへ掲載する
		がん相談	1がん相談の普及啓発・広報活動の充実	県がん患者相談支援部会内の「活用促進WG」への参画や、院内がん情報コーナー及び栗盛記念図書館がんコーナーの活用等を通じて、がん相談の普及啓発、広報活動に取り組む。
			2がん患者を対象とする治療と仕事の両立支援の実施	がん患者の治療と仕事の両立支援の体制確保に向け、産業保健総合支援センター及びハローワーク等との連携を深めるとともに、院内周知活動の継続により対象患者への早期かつ確実な介入を目指す。
		緩和ケア	1早期からの緩和ケアを実施する	入院がん患者の苦痛のスクリーニング実施率、基本的緩和ケア実施率ともに90％以上を維持する
			2看護専門外来でのがん患者への介入を充実させる	看護専門外来の介入件数を維持する(令和6年度:230件/年) ・がん告知や病状説明時にがん関連認定看護師が同席し、説明内容の補足や精神的支援、意思決定支援を実施する ・初回介入時に精神的苦痛が強い場合等、継続看護が必要と判断された場合には継続して介入する
	秋田厚生医療センター	がん登録	1.がん登録の精度向上を図る	・がん登録の精度向上のために積極的に各種研修会に参加する。
			2.自施設のがん登録データを解析する	・自施設のがん登録データを解析し、院内への周知を強化する
			3.がん登録データの認知度を高める	・がん登録データの認知度を高める。 ・当院HPや年報等へのデータ掲載を継続する
		緩和ケア・ 教育研修	1緩和ケアの提供体制・緩和ケアチームの活動についてPDCAサイクルによる評価・改善に取り組む	・「緩和ケアチームセルフチェックプログラム」(緩和医療学会)を実施し、緩和ケアチームを評価する。
			2非拠点病院や地域周辺施設との連携により、地域住民がどこにいても緩和ケアにアクセスできる体制強化に取り組む	・他施設からの相談対応や連絡窓口について、ホームページを見直し、必要な情報提供をおこなう。 ・秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育部会 秋田中央地域のグループ活動を行う。
			3院内における緩和ケアの質向上を図る	・院内スタッフに、緩和ケア研修会(PEACE)の参加を促す。 ・上記研修会を運営する。(10/4予定)
		がん地域 連携	1医科歯科連携の実施件数増を目指す	・男鹿潟上南秋歯科医師会との連携を図り、医科歯科連携の実施件数を増やす。
			2がん診療連携拠点病院研修会の実施	・がん診療連携拠点病院研修会の実施
		がん患者 相談	1患者さんや家族などが利用しやすい医療情報センターの環境整備を行う	・医療情報センターの環境を整備する ・がんに関する情報冊子の見直し
			2がん相談の対応の質の向上のために、がん関連の研修会に参加する	・がん関連の研修会に参加することで、がん相談対応能力の向上をはかる
			3がんサロンと就労支援活動の継続	・がんサロンを年4回開催する ・ハローワーク秋田との連携
		放射線治療	1.年間放射線治療件数200件以上を維持する	がん診療連携拠点病院に必要とされる年間放射線治療件数200件以上を維持する
			2. I 期肺癌および転移性肺癌に対する体幹部定位放射線治療の実施可能状態を維持する	呼吸器外科常勤医不在の状態においても、根治を目的とした手術以外の治療法を患者に提示できるようにするため、体幹部定位放射線治療の実施機能を保持し、年間件数5件以上を目指す。
			3.オリゴ転移に対する再根治を目的とした救済放射線治療の適応を拡大する	オリゴ転移に対する再根治を目的とした救済放射線治療適応拡大のために、肺以外の体幹部定位放射線治療を実施する
		化学療法	1外来がん指導患者の対象科の拡充	外来がん指導患者の対象科の拡大を行い、化学療法導入時の服薬指導の対象患者を増やす(現在は消化器外科、呼吸器・乳腺外科のみ)
			2がんに関する知識と専門性を有する薬剤師の育成	がん医療に携わる専門的な医療従事者の教育・育成を行い、認定資格保有者の増員を目指す
			3 外来化学療法の安全投与管理	外来化学療法の安全投与管理
			4がん患者指導管理料の算定件数	・医師、外来看護師と連携を図り、相談の受付 ・治療開始前の病状説明に参加するとともに、診察後、治療開始後に面談を行う。(がん患者指導管理料イ、ロの算定に繋げる) ・脱毛に関する個別相談の継続 スクリーニングの実施
			5免疫療法のスクリーニングの実施件数	・免疫療法に対する副作用の早期発見、対処 スクリーニングの実施

部 門			評価項目	Plan(計画) 2025.08
秋田赤十字病院		がん登録	1院内がん登録の精度向上を図る	・実務者は各種研修会等に参加し、知識向上と平均化を図る。 ・登録データの品質管理を定期的に行う。
			2院内がん登録データの分析を行う	統計作成やQI研究等の解析を行う。
		緩和ケア	1緩和ケアの提供体制の評価・改善を図る	1) 緩和ケアセルフチェックプログラムを実施し、緩和ケアチームの活動について評価・改善に取り組む。 2) 緩和ケアチーム・緩和ケア委員会としての活動目標を設定し、緩和ケアにおける多職種連携を強化する。 3) 緩和ケア診療加算算定の再開。 4) 専門的緩和ケアが必要な時期を逃さないよう、苦痛のスクリーニングや患者報告アウトカム等の実施について検討する。
			2院内・地域のACPを含めた意思決定支援に関する意識啓発を図る	1) 院内のACPを含めた意思決定支援に関する記録及び情報共有方法の検討を行う。 2) 二次医療圏内の地域を対象にしたACPについての講演会開催について検討しを行い、切れ目のない支援の提供に繋げる。
		地域連携	1地域の医療従事者を対象とした研修会・セミナーを開催する	地域の医療従事者を対象とした研修会・セミナーを開催する。(年1回)
			2地域の医療従事者とがん関連の症例検討会を開催する	地域の医療従事者とがん関連の症例検討会を開催し、地域との連携強化を推進する。
			3がん地域連携クリティカルパスの本稼働に向けて取り組む	がん地域連携クリティカルパスの本稼働に向けて取り組む。 ①関係部署とパスのフローチャートを作成し、本稼働に向け周知する。 ②連携する医療機関と協議する。
		がん相談	1がん相談支援センターの整備	がん相談支援センターの運営マニュアルを見直しする。
			2相談員の質向上	委員会内で、対応事例について多職種の視点で事例検討する。
		化学療法	1がん薬物療法における曝露対策を推進する	・病棟での閉鎖式薬物療法移送システム導入に向けた体制の整備と導入。 ①薬物療法を多く取り扱う部署で試行し安全性を検証 ②看護部と連携し取り扱いの研修会を実施し周知する ③取り扱いの手順書・説明書を作成
			2がん薬物療法オーダーリングシステムを安全に実施する	・入院がん薬物療法の安全な実施。 ①レジメン運用マニュアルの周知・運用 ②レジメン運用の安全性を評価、検討する(レジメン、手順など)
			3地域医療機関、保険薬局との連携充実	・WEB配信による合同研修会の開催。 保険薬局、地域医療機関に対し、当院で実施するがん薬物療法のレジメン解説や、連携シートの活用例の紹介等、研修会を計画する。
			4.がんに関する高度な知識と専門性を有する薬剤師の育成	・「日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定研修施設」「日本診療腫瘍薬学会 がん臨床病院連携研修施設」として、定められた期間で効率よく知識・技能を習得できるようカリキュラムを策定し、研修者を受け入れる。
		放射線療法	1依頼科・他科との連携	新たにできる治療法の周知を図り、依頼科と連携し、今まで以上に患者の利益が図れるように努める。
			2適切な治療計画の立案	個々の患者にあった治療計画を立案し、適切な治療を提供できるよう努める。
			3安全・安楽な放射線治療	事故防止や副作用低減などチームとして安全・安楽な治療を提供するよう努める。
拠点部病院等	大曲厚生医療センター	がん登録	1がん登録の精度向上を目指す	研修・勉強会等積極的に参加し知識を深める
			2がん登録データを活用する	がん登録データを活用する
		緩和ケア	1 緩和ケア医療連携体制の構築	拠点病院間のweb会議を開催する。 それを足がかりにして、拠点病院、非拠点病院間のweb会議、あるいは対面会議を開催し、連携についての問題点の共有やより有機的な連携について話し合う。 または、実際に有機的な連携ができた例の報告会を開催する。 紹介先と紹介元病院の間で、紹介された患者さんのその後について報告会を開催する。
			1がん相談支援センターの周知と関係機関との連携強化	がん支援に関わる関係機関と情報共有しながら支援を検討、実践する 院内がんサロンの実施
		がん相談	2アピアランス支援の充実と就労支援の周知・実施	アピアランス支援の活動を実施 就労支援における関係機関と連携しながら支援の検討に取り組む 院内出張相談会の実施
			3がん相談対応能力の向上	相談員対象の研修等に参加し、がん相談支援に関するスキルアップを図る
		がん連携	1がん地域連携バス件数を知る	がん地域連携バス運用拡大を図る 11件/年以上
			2地域の医療機関との連携強化	がん支援に関わる多職種と情報共有し連携できる
	平鹿総合病院		1 当院におけるがん診療の現状を把握し、課題を明確にする。	各部門の代表者による院内がん連携協議会を開催し、各部門における課題の把握(がん登録実務者のスキルアップ等)、取り組みの進捗状況について報告する。
			2 各部門の連携を強化する。	各部門で連携し、円滑な化学療法室利用、放射線治療に努める。 ア. 化学療法の支持薬の充実を図る。 イ. 外来化学療法 of の患者数の曜日の均てん化を進める ウ. 放射線治療に関する相談への対応と協力。
			3 地域とがん診療を連携する。	地域とがん診療を連携するために 1. がん地域連携バスのアンケート結果を踏まえ、当院としての運用方法を再検討する。 2. がん終末期患者の在宅移行支援における課題を共有する。
	能代厚生医療センター	がん相談	1知識の習得を図り、よりよい相談支援を目指す	各種研修会への参加、メールや郵送で送られてくるがん関連の書類を確認することで知識の更新や相談技術の向上を図り、よりよい相談支援を目指す。
			2県内におけるがん相談の周知・活用、拠点病院間との連携強化	秋田県がん相談員担当者会への出席、ワーキンググループ(相談対応の質向上)活動に参加し、県内におけるがん相談の周知と他がん診療連携拠点病院との連携を図る。
			3就労支援の周知・活用を図る	長期療養者等の治療と仕事の両立支援、就労支援事業についての周知や制度の活用促進を必要に応じてハローワーク能代と連携する。
		がん登録	1がん登録の精度向上	研修等に参加し知識を深める
		化学療法	1irAEへの対応がより迅速に、適切に行われるよう体制を見直していく	院内でirAEに対する勉強会を実施し、irAE対策マニュアルについても周知していく。
			2がん薬物療法における問題点や課題を抽出し改善していく	当院でのがん薬物療法実施における問題点や課題など改善していくために医師、薬剤師、看護師、事務部門等、多職種が話し合う場を設け、様々な意見を集約する
			3サイトカイン放出症候群(CRS)について知ってもらう	院内でサイトカイン放出症候群(CRS)対応した勉強会の実施および対応マニュアルを作成し周知していく
		緩和ケア	1.早期からの緩和ケア実施	早期からの緩和ケア実施 ①がん患者入院時、全員に苦痛のスクリーニング ②苦痛ありに担当看護師が担当し記録に残す ③専門的緩和ケア必要時、緩和ケアチーム介入
			2.チーム医療の推進	チーム医療の推進 ①多職種の緩和ケアチーム回診(週1、依頼時、状態変化時) ②多職種のチームカンファレンス(週1) ③院内、院外において多職種の緩和ケアチーム活動
			3.緩和ケアの感性・知識を持つスタッフ育成	緩和ケアの感性・知識を持つスタッフの育成 ①院内勉強会(年5回) ②緩和ケア通信発行・ホームページ掲載(年2回) ③秋田県緩和ケアチームWEBカンファレンス(年4回)

部 門			評価項目	Plan(計画) 2025.08
拠点病院等	由利組合総合病院	病院全体	1各部会の連携強化	定期的に各部会の活動報告を出してもらい、患者からのニーズを分析する ニーズの多い部会への応援体制を整える
			2他院・施設との役割分担	1)治療、処置の導入を行い、安定した患者を自宅近隣の医療機関に紹介することで、家族・近医と協力した医療を提供する 2)専門性の高い治療の上位機関への紹介と、治療後の当院での継続医療
		がん登録部会	1がん登録実務の精度向上を図る	1-1診断から5カ月での登録作業の開始を徹底し、提出前にデータの見直しを行う。 1-2実務者のスキルアップを図るため研修会等に参加する。
			2がん登録データを活用して情報提供を行う	登録数や各治療法のがん種別件数について病院ホームページに掲載する。
		緩和ケア部会	1早期からの緩和ケアの提供	苦痛のスクリーニングの実施 ・入院予定患者のスクリーニング結果を入院後に病棟でのケアに活かし、継続看護につなげていく ・スクリーニング陽性患者に対し、多職種で早期に対応していく
			2基本的緩和ケアの促進	リンクナースの育成 ・緩和ケア研修・ELNEC-J等の研修会への参加を促し、リンクナース自身に学びを深めてもらう ・リンクナース会議(4回/年)を開催し、他部署との情報共有の場を設ける ・現場リーダーとして部署でのスタッフ教育の実施
		地域連携部会	1. がん地域バス運用に向けた取り組み	院内関連部署との連携(情報共有、患者説明など)
				院外関係施設への周知(診療報酬も含めた情報共有)
		相談支援部会	1がん患者・家族・地域住民ががん相談支援センターの役割・機能を理解し、活用できる	がん相談支援センターの周知継続 1)がん相談支援センターのポスター掲示 2)病院ホームページ・市政だより・新聞で広報 3)由利本荘市中央図書館でポスター掲示、ちらし配布
				就労支援の体制づくり 1)両立支援コーディネーター研修参加、就労支援強化 2)就労支援窓口としてポスター掲示・周知・相談支援 3)ハローワーク本荘と合同相談会開催
				がんサロン・患者会の運営・支援継続 1)院内・院外がんサロン「おひさま」の開催継続 2)地域のがん患者会の運営協力 3)びあサロン「ホッとひといきぶんこ」周知強化
		化学療法部会	1抗がん剤治療患者に対して薬剤指導と副作用モニタリングを行い評価していく	抗がん剤治療患者には薬剤指導として連携充実加算の算定を行い、副作用モニタリングとしてがん薬物療法、体制充実加算を新規行う。
		放射線治療部会	1.放射線治療患者数の推移や診療科別・部位別データの把握・分析	診療実績の継続的な把握と分析を通じて、地域医療ニーズや治療体制の最適化を図る。
			2.県内の放射線治療に携わる人材の育成と他施設との連携強化	研修会や勉強会の開催、情報共有を通じて、専門性の高い人材育成と地域全体の医療連携体制の構築を目指す。
			3.患者の心理的サポート体制の向上を目的とした多職種連携体制の構築	院内外が多職種が協力し、患者・家族の心理的ケアやQOL向上を目指す体制づくりを進める。
	雄勝中央病院		1がん登録の情報収集、スキルアップ、解析を行う	1-1 がん登録の情報収集のため、積極的に研修会へ参加する。 1-2 がん登録のスキルアップ、登録精度の向上のため、院内がん登録中級者を一名配置する。 1-3 がん登録データ、QI研究の解析を行う。
			2苦痛のスクリーニングの効果的な活用と緩和ケア相談介入	苦痛のスクリーニング等結果の評価を継続的にを行い、スクリーニング陽性患者に対する緩和ケア相談及び緩和ケアチームの介入の質の向上。
			3早期からの緩和ケア介入のため、部門連携を図る	3-1 緩和ケア・がん相談について、外来・入院支援と連携し、早期介入体制を維持する。 3-2 院内外へ、緩和ケア・がん相談について情報提供と啓蒙活動を継続的に実施する。
	北秋田市民病院	がん登録	1.がん登録に係る研修会へ参加し、業務の向上へ繋げる。	がん登録に係る研修会へ参加。
			2.がん登録データを活用して情報提供を行う。	部位別登録件数、男女比等について引き続き病院ホームページへ掲載する。 QI研究へ参加する。
		緩和ケア	1緩和ケアの質の向上	1) 基本的緩和ケア充実のための研修会の開催 2)リンクナースと連携し、緩和ケアチームへのアクセスの定着を図る
			2意思決定支援を提供できる体制整備	1) ACP・意思決定支援についての研修会の開催 2) ACPに関する事例検討会の開催 3) ACPについて周知を図り、意思決定支援のサポート体制の構築
		化学療法	1 外来化学療法の質向上	・保険薬局とのがん化学療法に関する研修会の開催 ・がん薬物療法体制充実加算の算定
			2 入院化学療法の質向上	院内の職員を対象としたがん化学療法に関する研修会の開催
		地域連携	1がん地域連携クリティカルバスの普及	5大がん連携バスの登録件数増加に向け、市民に向けた周知活動としてwebサイトへ掲載する
			2地域連携の強化	地域の連携医療機関への訪問
			3職員の知識、技術の向上を図る	関連部署との連携・周知を図る
		がん相談	1. 外来初診時からのがん相談支援センターの役割を理解し活用できる	1) 外来初診時から治療開始までをめぐに、がん患者・家族が一度はがん相談支援センターを訪問できる体制整備。 2) がん相談支援センターのポスター掲示、リーフレットは配布する。
			2. 院内サロンの開催する	院内がんサロンの運営 院内の協力体制整備し学習会や語り合いの場を提供する。さらに、地域のサロンの運営へ協力をする。
			3. 相談対応の質向上を図る	患者サポートカンファレンス内で、相談事例に対して多職種からの視点から気づきを得て、日々の対応を振り返り相談の質を向上を目指す。
	市立秋田総合病院		1がん登録部会QI研究への参加と未実施理由の確認・反映及び院内周知	がん登録部会QI研究への継続参加と未実施理由確認・反映を行い、結果を院内に周知する。
			2irAE対策のマニュアル整備と研修会開催	irAE対策としてマニュアル整備と研修会開催
			3入院時苦痛のスクリーニング実施率50%	生活のしやすさに関する質問票を用いた入院時苦痛のスクリーニング実施率50%
			4がん相談件数1500件	がん相談支援センターの院内周知及び患者・家族に向けた案内の充実
	中通総合病院		1患者の希望に沿ったケアが受けるよう、当院のがん診療の現状を把握し、課題を明確にする	院内のホスピス転院の現状を把握し課題を抽出する
			2患者の安心・安全な化学療法のため、環境の整備やシステム作りを行う	1) インシデント・アクシデント事例への対応を行う 2) 化学療法患者のよりよいケアのため、個々の状況を踏まえた指導ができるよう、多職種で連携し実践する。(連携充実加算の維持) 3) 曝露対策の再検討をおこなう